

3 キャリア教育の学習

(1) 学習会の企画と実施

これは、キャリア教育という考え方やその必要性についての共通理解を目的として、研究推進委員会が企画し、計4回実施したものである。この取り組みは今年度で3年目となっている。

今年度は「キャリアの視点で、本校の教育を見直す」をテーマに、講義形式、グループ協議形式など、学習内容に応じてスタイルを変えて学習会を実施した。また、24年度作成し活用した「キャリアに関する学習資料」を、今年着任した職員に配布した。さらに、こうした学習の様子や補足的な内容は、研修部が適宜発行している「研修部だより」に掲載し、全職員に配布するなどして、キャリア教育の定着推進を図っている。

(2) 第1回学習会

6月の全体研修会後に今年度1回目のキャリア学習会を行った。今回の学習会は、今年度のテーマである「キャリアの視点で、本校の教育を見直す」を念頭に行った。具体的には、今年度は第6次研究の最終年度である。昨年度は今養版キャリアプランニングマトリックスを使用し行われた授業実践の中で取られた手立て方法を検証し、よりPDCAサイクルを意識し授業改善を行っていくことが、各研究グループから提示されている。そのため、今年度から本校に勤務された職員も多くいる今年度のスタートでもあったので、昨年度行った授業公開（公開授業研）での内容を職員全員で理解したうえで、今年度の研究を始めてもらうことを主旨として学習会を行った。

方法として、昨年度行われた授業公開（公開授業研）について、各学科（産業科、農業科、生活家庭科）、生活単元学習、総合の5本の授業について授業者からの発表、その発表についてのグループ協議の2本立てで行った。

- 1 今養版キャリアプランニングマトリックスを活用した授業について（昨年度の公開授業研より）
※各授業の指導案にかんしては、昨年度の研究紀要参照

産業科

- ・特別支援学級出身の生徒は少人数の教室で学んでいた経験から生徒同士のコミュニケーションが少なく、現在の作業学習の時間においてもそのような傾向が見られ、課題として考えている。
- ・現在教師から指導されているコミュニケーションに関する事項が、実際の職場ではどのように役にたつのかを紙面にまとめ、生徒に提示することで生徒への意識向上につながった。



農業科（1，3年合同授業を行った）

3年生からの視点

- ・生徒から「先輩のここを真似したい。」「ここがいい。」という話が持ち上がったことがきっかけとなり、合同授業を行う計画を立てた。

- ・合同授業では①コミュニケーション力②忍耐力、集中力を伸ばしていきかけたため、①を生徒達が教え合うこと、②を題材であるプラグトレイ洗浄を長い時間続けることで達成させようとした。
- ・3年生は後輩に教えることによって先輩としての意識を高めることができた。

1年生からの視点

- ・昨年度までは本格的には先輩、後輩間の交流はなかった。
- ・1年生の生徒は言われたことを言われたとおりにやるだけだったが、合同授業後には先輩から教わったことをその通りに行い、更に自分達なりに、「こうやったらどうなんだろう。」「ああやったらどうなんだろう。」と考えながら取り組むことができた。
- ・現在、2年生になったその生徒達には他題材についてもやりかたを考えさせている。



- ・マトリックスを観点とした授業を行うために、作業日誌の見直しを行った。
- ・生徒に還元できていたか確認を行うために作業日誌の自己評価の集計を行った。

生活家庭科

- ・指導の重点をマトリックスと合わせており、作業日誌をマトリックスの観点に合わせたものにした。
- ・授業は3年生段階での紙すきである。紙すきは2年生のときから行っており、慣れている。指導者は必要以上に指示を出さず、生徒が自分達で考えながら、作業に取り組ませるようにした。更に、コミュニケーション、手早さ、丁寧さも意識しながら授業を行った。
- ・学年は3学年で行ったが、科が生活家庭科であるため、マトリックスの3年生段階を狙うことは難しいと感じ、2年生段階を狙って行った。手立てを工夫することによって3年生段階を狙えるようになるのではないかと考えた。



生単（性教育の授業を行った）

- ・現3学年が2学年だった昨年は問題が多発した。その際に指導しても正しい答えは言えるがそれを実際の生活に生かすことができていなかった。そのため、自ら「選択する」ことに重点を置いた授業を行った。道徳のような授業を行ったため、生徒に答えは教えていない。
- ・「命を大切にすることはどういうことか？」という問いに対して事後学習の中で「自分はいじめられたことがあって、学校に行かなかったときがあるので命を大切にしない。」など自ら発表した生徒がおり、生徒の考えを引き出すことができたと考えている。
- ・今回の授業を行ったことによってマトリックスにどのように還元できたかは定かではないが、段階をつけて指導していくことが大事だということがわかった。



総合

- ・「総合的な学習の時間」に関する規定は実習の事前、事後学習以外に規定が無かった。
- ・進路に関する学習については生単の単元として行うよりも少しずつ行ったほうが生徒の身になると考えていたため、毎週行うこととなった。
- ・単元計画にはマトリックスとの関連を必ず入れている。計画、略案ともに網掛けになっている部分が特に重要な部分である。



2 グループ協議について 座談の感想

- ・発表をふまえたうえで、「キャリア教育」という視点で、どのように本校の学校教育目標を達成させていくかグループ協議を行い、職員それぞれの考え方をお互いに知り合う機会となった有意義な時間であった。

(ある職員の協議後の感想)

話し合いの中で自分の考えと他の先生の考えに共通点があった。また、様々な立場からの考えを聞くことができ、勉強になった。



(3) 第2回学習会

10月の全体研修会後に実施予定であったが時間の関係上、12月の一週目に変更して行った。今回の学習会は、本校が来年度に教育課程を見直すことが決定しこともあり、本校職員が本校の教育活動について共通理解し、学校のことをしっかり理解した上で学校運営にあたってほしいという理由から行った。内容は、本校の教育活動の主である作業学習にスポットをあて、各学科長から作業学習のねらいや教育活動の実態についての講義を行い、全校職員の共通理解に努めた。また、寄宿舍との連携というのも日常の生徒指導では重要であることから、北特研に参加した寄宿舍職員からの研修報告も行い、寄宿舍の取り組みも知ってもらって、生徒をどう育てるか考えてもらうことを主旨として、講義形式の学習会を行った。

1 寄宿舍より北特研全道大会・部会発表（資料あり：第3回全体研修会のうしろ部分）

① 寄宿舍部会Ⅰ（義務の養護学校中心一泉波寄宿舍指導員）

- ・4グループに分かれ、各グループとも実例をもとに協議した。KJ法を用いて、達成の可能性

ではなく方向性を示すというものだった。

- ・評価のときに「こんな目標だったんだ」ではいけない。目標の立て方が重要である。
- ・言葉かけをするという目標設定についても、言葉かけで達成可能かどうか考えるべき。

② 寄宿舎部会Ⅱ（職業学科高等部－藤田寄宿舎指導員）

- ・主に情報交換を行い、ブレインストーミングの手法を用いて協議を進めた。
- ・現在寄宿舎で研究している SST は、全舎生に行っている学校もあった
- ・校舎が複雑で死角ができる点が課題となっている学校があった。
- ・プライベートな空間を持つことが難しいという話題になった。現在、本校では女子棟は1部屋空けている。
- ・舎室編成が能力別で組まれている舎もあった。進路希望や発達段階に応じて、高め合うことはできるが、とすると見下したり自己評価が高くなったりする生徒もいるという課題が上げられていた（今は発作や人間関係などを考慮し全学年1部屋に入るようにしている）。
- ・どのような障害があろうと、周りに配慮されなければならないことを理解させなければならない。自立は何でもできるようになることではない。相談できる力が必要。
- ・同じ生徒の成長を促す立場として協力・連携が必要だと思う。日々の生徒情報を PC で共有している学校もあった。

2 各学科から

① 産業科

- ・製品紹介。1年は基礎、2年は発展、3年は応用。
- ・作業工程では、完成までの道のりが長い。使用粘土は学年で異なる。
- ・各学年に目標があり、まずは「集中力、危険への意識、丁寧さ、器用さ」。さらに、伸ばしたい力は「コミュニケーション能力、礼儀正しさ」がある。
- ・販売流通を意識して取り組んでいる。
- ・窯業は時代遅れな印象を受けるが、適宜題材を見直しながら、新しく良いところは取り入れるようにしている。例えばビルクリーニングなども行っている。
- ・大切にしていることは、進路先で大切だと言われていること。「返事挨拶、言葉遣い、姿勢、道具を大切にする、準備片付けを進んで行う」といった仕事をする上での基礎基本。作って楽しいではなく、仕事としてとらえ取り組んでいる。

② 農業科

- ・題材紹介。1年は玉ねぎとコーン、2年は今金男爵、豆類、草花。3年はカボチャとニンジン、花壇用の花（A コープ販売用）と学校祭用シクラメン。種から育てて販売まで行い、生産から販売までの社会（流通）の流れを意識して取り組んでいる。
- ・合同花壇整備（交流及び共同学習の一環として、檜山北高校と3年農業科・産業科で行っている）
- ・農業は生き物を育てるという仕事。手先を使う仕事も、体を動かす仕事もあり、いろいろな作業種を経験することができ、本人の特性を見極めることができる。
- ・農家になるためではなく、農業をしながら、基本的な働く力を身につけさせるために、日々取り組んでいる。

③ 生活家庭科

- ・作業内容紹介。1年は資源回収、フェルト、縫工。2年は紙漉、3年は石けん、3年間で除雪、

清掃を行っている。

- ・現在紙漉では大きい紙の制作を試作中で、これができるれば本校の長形3号封筒を制作できる。校内での流通を意識して取り組めるか計画している。
- ・公宅回収の牛乳パックは、セイコーマートに持って行ってティッシュに替えて使っている。それ以外はせたな「ふれんど」に回収してもらっている。



北特研発表（寄宿舎）



産業科発表

（４）第３回学習会

12月の2学期終業式後に実施した。北海道千歳高等支援学校と北海道小樽高等支援学校、2校の公開研究会に参加した本校職員による研修報告という、講義形式の学習会を行った。今回公開研究会に参加した2校は、本道の高等支援学校では新設校で、キャリア教育を推進している学校であり、今後の本校の教育課程を考える上で、とても有意義な報告会（学習会）になった。

1 研修報告～矢倉教諭より「北海道千歳高等支援学校 公開研究会参加報告」

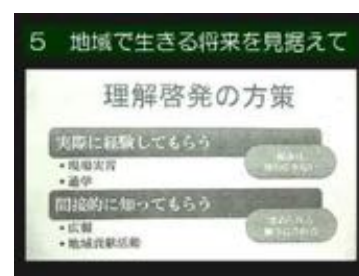
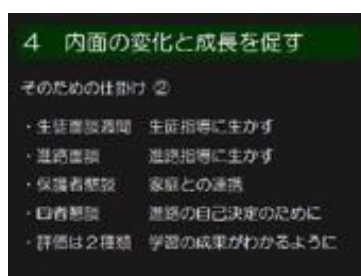
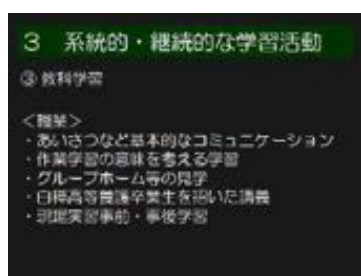
○ 学校見学及び授業公開

- ・グループ別に行われていて生徒がすべて案内・説明を行っていた。言語活動の充実の一環ということだが、練習不足や緊張なのか生徒の実態によるものなのか、説明はたどたどしいところもあった。
- ・生產品販売を行っていたが、商品の説明や会計では、「〇〇円になります」と接客用語としては間違っていた場面があった。
- ・箸の袋詰めの受注作業の様子も見学できた。美術室にて2人1組で行っていたが、一人一人がもくもくと手早く行っていた。

○ その他

- ・生徒の実態としては、既設科でも本校よりも障害の重い印象を受けた。また、初めての機会だったからかもしれないが、明るさや笑顔が少ない印象を受けた。
- ・生徒の挨拶や来客者がいる際の身の振る舞いなど、職員が手本を示し、日常的に指導する必要があると感じた。
- ・体育館の会場の作り替えも生徒が行っていたが、職員の指示出しも端的さが求められると感じた。
- ・「特別支援学校の常識を地域社会の視点から見直す」。これは学校の常識が社会の常識かどうかを考え、社会で許されないことは学校でも許されない、ダメなものはダメと教えること。生徒指導規定があるのもこれの一つである。従来の特別支援教育（学校）で行われてきた成果、特別支援教育としての基本的な指導をどのようにうまく混ぜ込んでいくか、学校が掲げた理念を実現するだけの努力が日々必要であると感じた。

※別紙 PPT 資料抜粋



2 研修報告～野呂教諭より「北海道小樽高等支援学校 公開研究会参加報告」

○キャリア教育（キャリア発達を支援する重点、OKS ライフキャリアプラン等）

1) 教育課程の編成ポイント：「進路学習を学習の柱とする」「進路学習の充実を図る」

2) キャリア発達を支援する重点：5つの項目

「人間関係づくり」「コミュニケーション」「働く環境」「将来設計」「生きがい」

3) OKS ライフキャリアプラン

指導計画、支援計画、通知表をまとめて1つのカルテ形式になっている帳簿。特に、「本人の進路希望」について各学年の希望を同じシートに書き、その変容が一目でわかるようになっている。

（5）第4回学習会

「教育課程の見直しに向けて」～各教科中心の話し合い～

2月の第4回全体研修会とあわせて実施した。平成27年度より、本校の教育課程が一部変更になることが決定した。改訂ポイントは3点である。1つめは1単位時間。2つめは国語と数学の時間増。3つめは指導内容（生活単元学習など）の精査である。これらの内容は、教育課程検討委員会が中心となって、職員で全体会議を何度も繰り返し決定した。

これら決定した項目の具現化のため、テーマを2点に絞って話し合いを行ったのが、今回の学習会である。話し合ったテーマは2点。「国語数学の時間増」「生活単元学習などの内容精査」である。具体的には、各教科免許者が中心となり、学校教育目標（マトリックス）や学習指導要領から、教えなければいけない内容と実際の年間指導計画を照らし合わせながら話し合う。

話し合いはグループで行い、約30分間の協議を設定した。協議の内容は模造紙などにまとめ、発表してもらうこととした。

グループ分けについては、「国語」「数学」「社会①」「社会②」「情報」「理科」「性教育（保健体育）」「家庭」の8グループとし、各主免許を軸としてグループ分けを行い、専門性を生かした話し合いを展開させていった。話し合うポイントとして、前述でも示したように学校教育目標（マトリックス）や学習指導要領から、教えなければいけない内容と実際の年間指導計画を照らし合わせながら、本校の生徒に何を教えるべきかを話し合った。「専門性」を意識して、それぞれの立場から意見を出すことが研修機会にもなると考え、このような方法をとった。

④ 家庭グループ

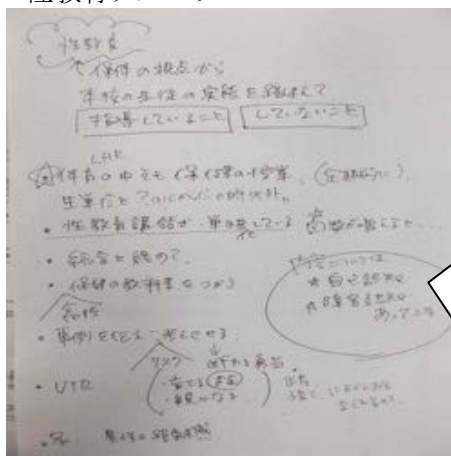


衣食住+ライフプランを教えられればと考える。

食では、食経験を増やす。衣では、着る物への意識（洗濯、整える）。住では、住環境の構築（どこに住むか、どんな部屋か）などが考えられる。

ライフプランでは、お金にかかわる知識や問題、人生の中でいろいろな事象（家族、結婚、余暇、趣味なども含め）が起きたときにどういった選択をして行くかを考えさせるのも、家庭科として大切ではないかと考える。

⑤ 性教育グループ



現在、各学年年一回性教育講話を行っている。

それ以外にも、今後は保健体育の授業や LHR を活用して指導の継続性を考えながら指導を展開していくことが必要であるとする。

指導内容としては、①自己認知②障害認知がベースとなるが、異性とのかかわりかた、実際に子どもを産んで養う力があるかなど、自分の将来や人生設計を考えさせながら展開していく必要がある。

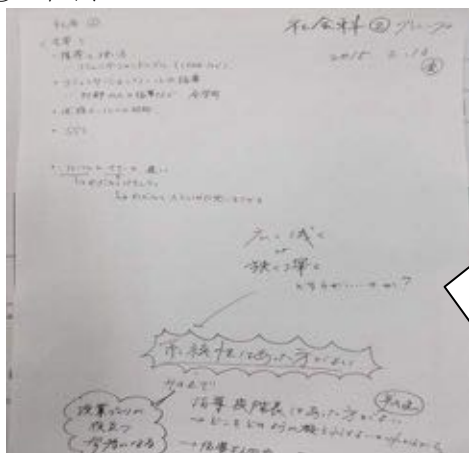
⑥ 社会 A グループ^o



公民分野は生活単元学習で取り扱う内容が多い（年金、手帳など）。また、義務と責任、自由といったところは日々の学校生活の中で教えていく必要があるが、担任裁量で収まっている可能性がある。

反面、地理や歴史についてはあまり取り沙汰されてないのが現状である。先代があつて今があるというつながりを教えていくべきであり、地理の広い世界観を持たせるといふところも、本校生徒に足りない観点であると考ええる。

⑦ 社会 B グループ^o

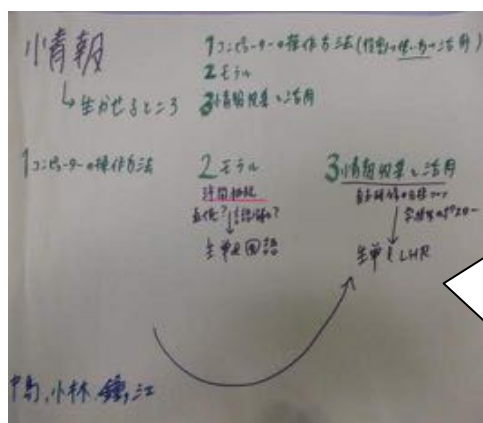


生活単元学習や学級活動などの時間を使用して、広く浅く、内容や方向性を迷いながら教えているのが現状である
と考える。

系統性を持たせながら取り組んでいくことが大事であり、さらに社会的分野の各単元で、指導段階表があったらどうか。

指導段階表などは、授業づくりの参考にもなるだろうし、誰にでもわかりやすいことが重要である。

⑧ 情報グループ



教えるべきは「コンピューターの操作方法」「モラル」「情報収集と活用方法」の3つ。

モラルに関しては、進路指導部の卒業生の実態報告でもあったように、3年間通して指導すべきである。その基礎となるのは道徳的なものであったり、言語活動的なものである。生活単元学習や国語の中で学習できるのではない。その他の視点に関しては、修学旅行の自主研修について調べたりや学校祭ポスターづくりなど、生活単元学習やLHRでできるのではないかと考察する。

(6) その他の学習会

また研究推進委員会が企画したキャリア教育学習会と似たような取り組みではあるが、研修部が企画し勉強会を不定期で行った。日々授業実践で活用できる内容からキャリア教育の考え方など、多くのテーマを設定し取り組んだ。忙しい中、若手の先生方中心に勉強会に参加し、多くの意見を出し合うことができた。このような機会を設けることで、明確な答えは出ないにしても、研究に対する意識や意欲を持ってもらうことができたため、一定の成果があったと考える。

(6) 学習会の成果と課題

全体研修会と合わせたり、長期休業中の時間を利用して学習会を実施することで、時間的な負担を抑えながら効率的に学習を進めることができた。一方で、他の分掌企画の学習会と内容が一部重なることもあり、今後精査が必要になってくると考える。

また、学習内容を考える際に過去2年間の経過を加味したうえでの計画だったので、内容に苦慮することがあったことも事実である。その中で、研究の進み具合や職員からの声、本校の課題を受けて、タイムリーな内容を計画し実施することができた。また、講義形式と協議形式を組み合わせることで、学習会後は研修部だよりで復習できるような記事を掲載し発行するといった流れを作ることで、定期的にキャリア教育や研究のことを意識して指導に当たることができたと思う。

このように、学習会の実施は、研究への意識喚起、キャリア教育の必要性や考え方の共通理解を進めるために大変効果があった。しかし、学習会の内容を振り返ると、職員間の共通理解と本校の課題解決にむけた取り組みが主になった内容であった。そのため、あらためて「キャリア教育の考え方」「障がいそのものの理解」という観点が薄らいだ内容でもあった。次年度はこの学習会がマンネリ化しないよう、新たな工夫が必要になると思われる。このような成果と課題を踏まえ、次年度以降も学習会を実施していきたいと考えている。